

第10回名古屋大学博物館企画展記録 名大キャンパスの野鳥

Records of 10th NUM Special Display Birds in Higashiyama Campus

蛭薙観順 (HIRUNAGI Kanjun)

名古屋大学博物館
The Nagoya University Museum, Chikusa-ku, Nagoya 464-8601, Japan

会場：名古屋大学博物館
会期：2007年1月23日～2月24日

ごあいさつ

博物館に展示中の名帝大キャンパス構想模型（田村模型）は1940年頃の東山キャンパス予定地の風景を示しています。東山キャンパスが丘陵地を切り開き造営されたことを模型は物語ります。東山動物園はすでに開園していますが70年ほど前、まだこの付近は豊かな森が連なり、多くの野鳥が生息した地だったと想像できます。模型の池は現在の鏡ヶ池です。おそらく水鳥や渡り鳥の憩いの場だったでしょう。この池は半分ちかく埋め立てられました。残念ながら私たちは、70年前のこの地の調査はできません。しかし、残された自然の一部を垣間みることはできます。名古屋大学生物研究会の調査などから、一年を通して渡り鳥を含め、およそ45種の野鳥を東山キャンパスで観察できることがわかっています。

この企画展ではカメラに記録された野鳥を東山キャンパスの生息環境とともに紹介します。結構豊かな自然が残されていることに驚かれるでしょう。しかし、キャンパスにも建物が増え、周囲の市街地化も進んできました。その影響が確実に野鳥の生態に影響を及ぼしています。このことは生物研究会の調査からも読み取れます。次の70年に、私たちはこの東山キャンパスに何を残すのでしょうか。キャンパスミュージアム構想の中で一緒に考えてみませんか。

企画展の開催にあたり次の方々にご協力いただきました。

小野沢けさみ、小林哲栄、斉藤貴子、佐藤紳司、塔 隆志、松田 学、三宅範幸、山崎紘司、吉村文孝、
名古屋大学生物研究会



2007年1月
名古屋大学博物館

名大東山キャンパスの野鳥

名古屋大学東山キャンパスでは一年間におよそ45種の野鳥が見られます。キャンパス内には舗装面と街路樹が並ぶ都市的空間、小さな池、畑、草原、若い森など小規模ながら多様な自然環境があります。そしてそれぞれの場所には環境に適応した特定の種類の野鳥が生息しています。

野鳥は身近に見られる野生動物です。野生動物は自然環境を敏感に映す鏡であり、野鳥を観察することで人々は日々の季節の移り変わりを感じ、自然をより深く理解することができます。

本展示では、野鳥をそのニッチと共に紹介しています。「ニッチ」とは一つの生物種が生きていくために占有する自然環境のことです。様々な環境を含む名古屋大学キャンパスは、名古屋の自然環境の縮図とも言える場所です。この小さな一角に生息する野鳥を通して、名古屋の原風景を振り返り、自然の現状と移り変わりを考えるきっかけとなれば幸いです。

展示は (A) 池の周辺と草原、(B) 森の中、(C) 森の周辺、(D) 街路樹と歩道の4部構成です。

ニッチとは

「ひとつの生物種が生きていくために占有する自然環境」のことです。
「ニッチ」という概念を知ることで、自然と野生生物の見方が大きく変わってきます。

名大キャンパスにおける森のニッチの具体例

森の木の上部だけでも様々なニッチがある

| | | | |
|----------------|-------------------|-------------------------|-----------------------------------|
| コゲラ 木の幹 | エナガ 主に落葉樹の枝先 | メジロ 主に常緑樹 | ヒヨドリ 南方系の樹種 大きめの 昆虫、果実、花 |
| カワラヒワ 硬い木の葉 | ヒガラ 針葉樹 虫や実 | シジュウカラ 北方系の樹種 虫や実 | ヤマガラ 南方系の樹種 虫や実 |

名大キャンパスの森
木の上のニッチの
具体例

ニッチの原則から見る自然界のしくみ

(1) 平和共存の関係「棲み分け」の成立
別の種のニッチを侵襲しないので平和で安定な共存、いわゆる「棲み分け」が成立します。(例：地面でのニッチによる棲み分け)

それぞれのニッチを侵さないことで平和な共存が成り立っている

| | | | |
|------------------|--------------------------------|------------------|------------------|
| ジョウビタキ 森の奥の地面 | アオジ 暗い森の地面 種子 | ウグイス 樹の下葉 | セグロセキレイ 水辺の地面 |
| ルリビタキ 開けた森の地面 | シロハラ 森の中の 落葉の地面 ミミズなど | ツグミ 森の外の開けた地上 | |

名大キャンパス
地面のニッチと
鳥たちの棲み分け

(2) 環境消失と絶滅
1つの環境が破壊された場合、そこをニッチとしていた種はその地域で絶滅します。他の鳥の場所や餌を使って生き残ることはむずかしいのです。(例：シマフクロウのニッチ)

シマフクロウ

北海道などに分布。冬でも凍らない魚の多い
浅い川と営巣に大きな木の洞が必要

古く大きな森と自然の川が消えると共に絶滅へと向かっている

ニッチの消失により
絶滅しつつある
シマフクロウ

(3) 餌を分け合う平和な共存
1つの干潟に多くの種が飛来し餌を漁る場合にも、鳥たちは種ごとに争うことはありません。それぞれの種ごとに「受け持ち」があって、特定の餌の獲り方で特定の種類の餌だけを食べているからです。(例：藤前干潟のシギ)

エサを分け合うことで平和な共存が成り立つ

| | | |
|----------------------------------|-----------------------|--------------------|
| セイタカ ソリハシシギ 水中の泥を かきまぜる | オオソリハシシギ 深い泥の中のゴカイ | チュウシャクシギ 泥の中のカニ |
| トウネン 表面のゴカイ | | |

藤前干潟の
シギ類の例

森では冬の間、色々な種の小鳥が1つの群れを作り生活します。一本の木に群れていても餌を争うことはありません。それぞれの種は自分の餌の探し方、餌の種類を守り共存しています。(例：東山キャンパスでのカラ類の混群)

違う種類の鳥が同じ木の上で共存している (混群)

| | | |
|-----|--------|------|
| コゲラ | エナガ | メジロ |
| ヒガラ | シジュウカラ | ヤマガラ |

東山キャンパスの森
カラ類の混群

(4) 都市化による新しいニッチの創出
街路樹、公園や庭の植え込み、舗装面、ビルなどの都市環境が作られ数十年が経ちました。この環境を新しいニッチとみなし、都市空間に進出して来た鳥たちがいます。(例：街路樹とキジバト、人工的な広場や舗装面とハクセキレイ、公園のドバトを狙うオオタカ)

人工的な広場や舗装面に進出

ハクセキレイ

空白のニッチに進出する事で
個体数増加

ハクセキレイの
空白のニッチ
への進出

写真パネルで紹介した鳥の種類

東山キャンパスの野鳥 どこで会えるの？

A 池の周辺と草原

水面：アオサギ、カルガモ、マガモ、ゴイサギ、オシドリ、カイツブリ、キンクロハジロ、コサギ、ツバメ、オナガガモ、コアジサシ、

水辺：キセキレイ、セグロセキレイ、カワウ、カワセミ

草原：ベニマシコ、カシラダカ

B 森の中

高い木：ヒガラ、ウソ、シジュウカラ、メボソムシクイ、センダイムシクイ、キビタキ、エナガ、ヤマガラ、アカゲラ、コゲラ、カケス、メジロ

低い木と茂み：ウグイス、アオジ

地面：ルリビタキ、シロハラ

C 森の周辺

ツグミ、ヒヨドリ、オオルリ、ジョウビタキ、シメ、イカル、モズ、カワラヒワ

D 街路樹と歩道

ハクセキレイ、スズメ、ハジブトガラス、ハシボソガラス、ムクドリ、キジバト



(野鳥の写真展示の一部)

名古屋大学生物研究会（生研）からのメッセージ

今回の博物館展示には名古屋大学生物研究会（生研）の現役とOBの有志が協力しています。生研は昭和46年（1971年）に誕生したサークルで、すでに創設から35年が過ぎています。活動内容はバードウォッチング、昆虫採集、植物観察といった野外での生物観察です。また、これらの行動に欠かせない登山やキャンプ等のアウトドアも重要な活動です。ときには、生き物のことを忘れてアウトドアに走ってしまうこともあります... 美しい生き物、珍しい生き物を求めて、北海道から沖縄まで長期遠征をすることもあります。また今回の展示でおわかりのように、名大内の自然探索もかかさず行

なっています。特に、毎月行なっているバードセンサス（野鳥生息数調査）の結果は、われわれの誇る貴重なデータです。今回の展示が皆様に名大の自然を理解して頂くための助けとなれば幸いです。

名大の自然 Vol... 9 No... 4 1985年 6月 25日

コアジサシ (チドリ目カモメ科) *Sterna albifrons*

名大にも、時々、アジサシの仲間のコアジサシが飛んで来る。鏡ヶ池の上を回り回らば、時折、ダイビングして小魚を捕える。今年は、例年と比べて、コアジサシの記録が多いので、鏡ヶ池へ行けば、見られるかもしれない。ただし、過去に同じカモメ科のユリカモメの記録もあるので注意が必要である。

コアジサシはアジサシ類の中では最も小さい。口はしは黄色で先端は黒い。足はオレンジ色をしている。

ユリカモメは、コアジサシと比べて、口は大きいくちと、頭部は黒く、くぼいているのですぐ区別できる。

コアジサシは、四月頃日本に渡来する夏鳥で、川、沼、河口等に普通に見られる。アジサシ類中唯一本州で繁殖する。

文責 浅竹

名古屋大学生物研究会



(「名大の自然」の原稿より)

東山キャンパスにおいて 個体数の経年変化が顕著な鳥たち

～生物研究会 30年の野鳥生息数調査の記録より～

都市化の進行により名古屋の自然環境が変化してきました。名古屋大学東山キャンパスでも自然林や水辺が減少しています。

ここでは名古屋大学学生サークル、生物研究会が行っているバードセンサス（野鳥生息数調査）の過去約30年間の記録において、鳥の個体数が顕著に変化しているものを挙げて、生息環境の移り変わりを見ていきます。

水辺に住む鳥：カルガモ、オナガガモ、マガモ

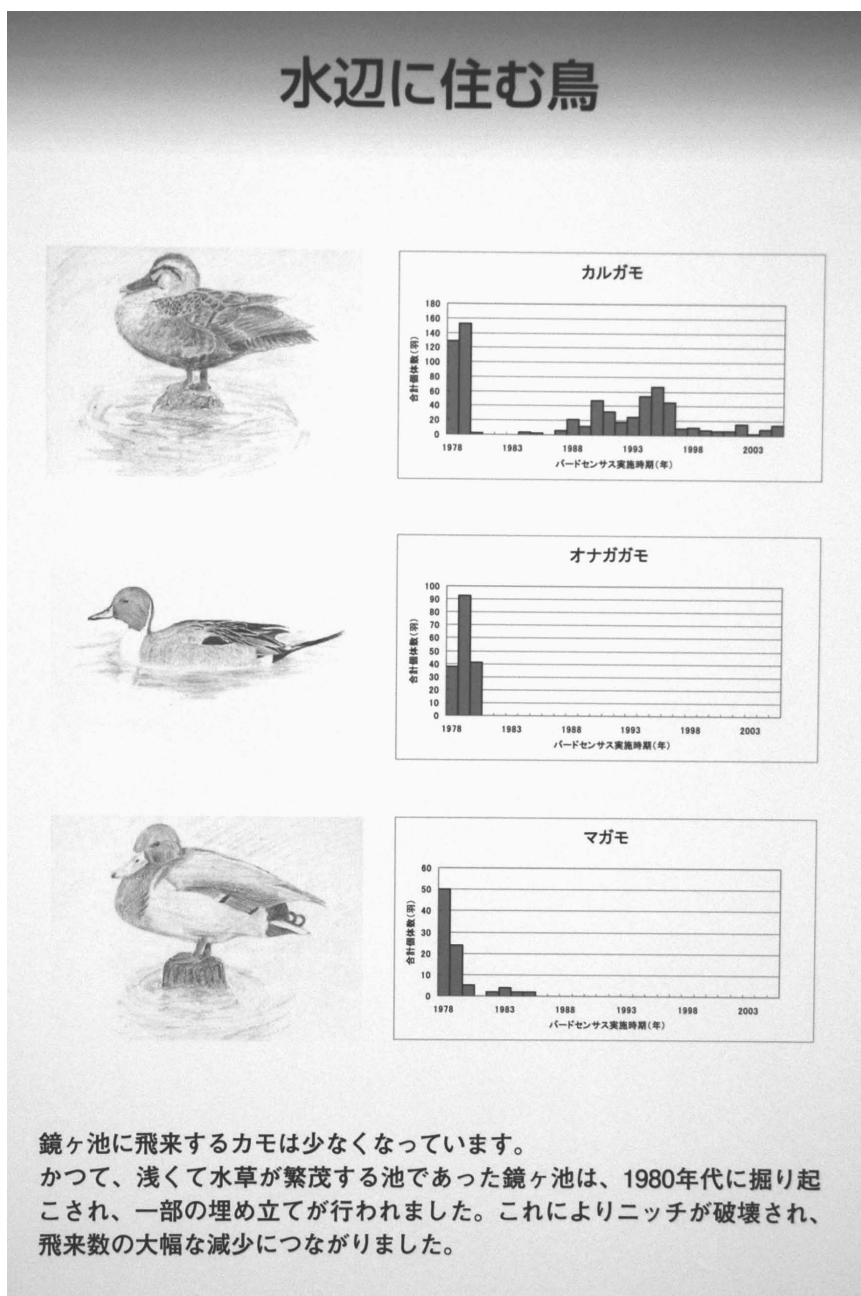
鏡ヶ池に飛来するカモは少なくなっています。かつて、浅く水草が繁茂する池であった鏡ヶ池は、1980年代に掘り起こされ、一部の埋め立てが行われました。これによりニッチが破壊され、飛来数の大幅な減少につながりました。

地面に住む鳥：モズ、アオジ、ホオジロ、カシラダカ、コジュケイ

モズやアオジなど地面をニッチとしている鳥は減少している傾向があります。これは名大内の自然環境が悪化して、自然の地面が減っていることが大きな原因です。名大内に限らず市全体で都市化が進み、道路が舗装されて自然の地面が少なくなってきました。

高い木に住む鳥：シジュウカラ、ヤマガラ、コゲラ、アカゲラ

ヤマガラやコゲラのような高い木をニッチとする鳥は増加している傾向があります。これは、名大にある樹木が成長して大きくなったためであると考えられます。



博物館野外観察園と野鳥

東山キャンパスの南西にある博物館野外観察園には、約 4000m² の緑地に林や花壇が広がっています。カリンやナシなどの果樹もあり、農薬を極力使わないため虫も多く、実や虫を求めてさまざまな野鳥が訪れます。よく見られるのはヒヨドリやムクドリなどで、季節によってはモズ、メジロ、コゲラなどが見られます。おととしから置いた巣箱に、カラの仲間が巣を作るようにもなりました。観察園は平日 10 時から 16 時まで一般公開していますので、林を散策しながら野鳥を探してみたいかたはいかがですか。

写真：キビタキ（オス）、キビタキ（メス）、モズ、ムクドリ

カルガモ

カルガモ（軽鳴）は一年中ふつうに見られる淡水ガモです。鏡ヶ池では 2006 年 1 月には 8 羽のカルガモが観察されました。中央図書館前の池のほとりでカルガモの繁殖が見られます。親子で泳ぐ姿は多くの人々の目を楽しませ、2006 年 8 月の親子がカメラに記録され企画展のポスターに登場しています。その後、鏡ヶ池に移動したとの情報もありましたがどうなったのでしょうか。

カルガモは適応性が高いといわれ、東京都心の人工池でも繁殖しています。このことがわかったのは 1983 年春で、マスコミにも紹介され多くの人たちに親しまれています。

吉村文孝さん（生命農学研究科学生）は彦根市で湖、用水路、水田などでカルガモの生態を記録しています。右の 4 枚はその成果です。

写真：カルガモ 6 枚

体験・参加コーナー

バード de クイズ 私はだあーれ

A ピースを組み立てると 3 種類の鳥があらわれます。

その名前を解答用紙に書いて受付に出してください。正解者には記念品(特製 クリアファイル)を進呈。(先着 200 名様)

B (1) から (10) の鳥の一部の写真をみてその鳥の名前を当ててください。解答用紙に書いて受付に出してください。6 問以上正解の方に記念品(特製 野鳥ポストカード)を進呈。(先着 100 名様)

マップ de マーク どこにいるの??

東山キャンパスの野鳥の目撃情報を募集!!

マップに記入して受付にお出してください。

特製 野鳥ポストカードを進呈!!

聴いてみよう!!

(「声が聞こえる野鳥図鑑」(文一総合出版)とサウンドリーダーを 2 セット設置)

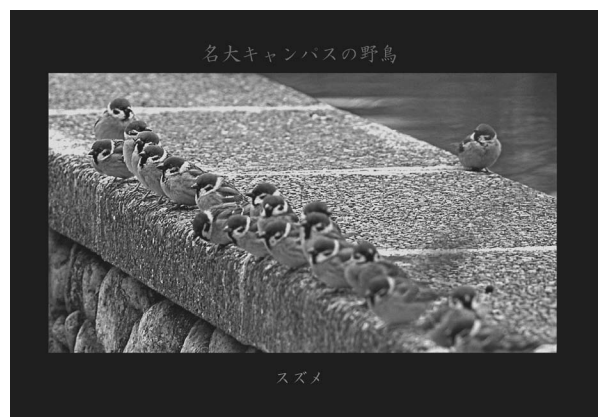
関連書籍コーナー

フィールドガイド 日本の野鳥(日本野鳥の会)他



(体験・参加コーナー)

企画展特製のポストカード（4種類）



身近な野鳥たち 投稿写真コーナー

写真：カワセミ、ヤマセミ、キクイタダキ、オオルリ、ヒレンジャク、カッコウ、モズ、ヒヨドリ、ゴイサギ、

企画展関連の催し

第 67 回特別講演会

「都会で暮らす鳥たちの背景」講師：佐藤紳司（理学研究科）

2007 年 1 月 26 日

キャンパス探鳥会

2007 年 2 月 10 日、5 月 5 日

案内人：佐藤紳司、生物研究会有志

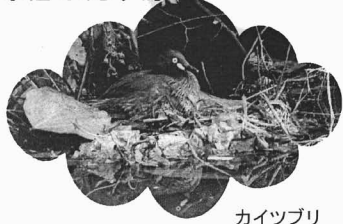


(キャンパス探鳥会 (2007 年 2 月 10 日))

めいだい とり しやしん
名大にいる鳥の写真を
見てみよう！

とり
鳥には、それぞれすむ場所がありま
す。名大にいる鳥で、おもに「水辺
でくらす鳥」「林の中の木でくらす鳥」
「道の木や道でくらす鳥」を見て
みよう

みずべ とり
水辺でくらす鳥

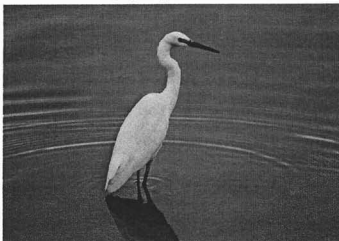


カイツブリ



Q1 巣があるね
巣の材料は何？
あしには水かきも
ついているんだよ

みずべ とり
水辺でくらす鳥



コサギ



Q2 ずいぶん
なが
長いくび
なが
長いくちばし
なが
長いあしだね
みず
水かきはある？
さかな
魚やカエル、
ザリガニを
た
食べるんだね

はやし き とり
林の中の木でくらす鳥



Q3 コゲラは
キツツキの
なかま
仲間だね。
木をつついて
いるね なぜ木を
つづくのだろう？



コゲラ

みずべ とり
水辺にくらす鳥と
くちばしの形を
くらべてみよう

はやし き とり
林の中の木でくらす鳥

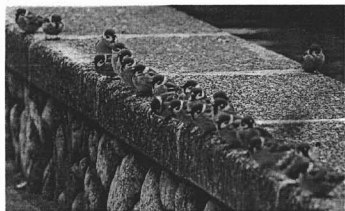


ヒガラ



Q4 サクラの実を
た
食べているね
むし
虫は食べないのかな？

みち き みち とり
道の木や道でくらす鳥



スズメ

みち き みち とり
道の木や道でくらす鳥



ハシブトガラス



めいだい
名大には くちばしの
ふといカラスと
ほそいカラスがいるよ

こたえ Q1 しょくぶつや ピニールぶくろなど
Q2 みずかきは ありません
Q3 ムシをとったり すをつくったりするため
Q4 たべます

さがしてみよう
かんがえてみよう

だい かいなごやだい かくはくぶつかんきかくてん
第10回名古屋大学博物館企画展
めいだい やちよう
名大キャンパスの野鳥



なごやだいがく こうない
名古屋大学の構内(キャンパス)で
は、たくさんの鳥を見ることができます。

ねん まえ なごやだいがくせいぶつ
30年も前から「名古屋大学生物
けんきゅうかい」とりしやしん
研究会」で、鳥の写真をとったり、数
をかぞえたりしています。

2007.01.25.作成

(小中学生のための解説パンフレット)